

GU'DAY



教育実習の様子



トレーニングモデルを使ったフィジカルアセスメントの演習風景

- 教員養成課程のこれから～教育を目指す人々へ～ ②
- 企業との連携強化 NTTグループなどとの連携による企業人講座が充実され単位認定化 ④
- 私たちがつくる群馬県の地域医療 ⑥
- 専門看護師としてキャリアを磨く ⑧
- 理工系卒業生の就職環境の変化と女子学生の増加 ⑩

教員の魅力と教員養成の未来 未来を創り出す教育の魅力とは

激しく変化する現代日本にあって、いま大学への期待はかつてないほど大きい。社会の多様な課題を解決し、未来を切り開く力。その未来をつくる次世代の人材を育成するのが教員であり、教員を養成する教育学部への期待は無限大です。次世代の「人づくり」から始まる未来。そのミッション(使命)を託す優れた教員をどう養成していくのか、豊泉周治学部長にお話を伺ってみましょう。

●教員の魅力、 そしてミッション

「教員の魅力。それは、子どもたちの成長に寄り添って、入学から卒業に至るまでの大きな成長に立ち会えるところです。子どもたちがさまざまな課題を自ら解決してゆく姿を見ると、その成長が実感されます。教育にはものづくりとは異なる格別の喜びがあります。」と豊泉学部長は、教員という仕事の魅力について語ってくれました。

学習指導要領に教育目標として上げら

れる「生きる力」を育み、未来社会の担い手を育て上げること。教員に求められるミッションは、変化の激しい今だからこそ、切実に求められているのです。

●「学び続ける教員像」とは

未来社会を担う「人づくり」に携わる教員は、大きなやりがいのある仕事です。とはいえ、「子どもが好きだから」というだけでは教員にはなれません。

教職への強い使命感を前提に、何よりも学び続ける力が必要。高度専門職としての高度な知識や技能に絶えず磨きをかけ、教育現場で実践できる指導力を身に付けるには、学び続けるしかなければなりません。

教員になるということは、学部教育だけで完結するものではなく、「学び続ける教員」であることが不可欠なのです。2012(平成24)年には文部科学省が「学び続ける教員像」の確立を目指しに掲げ、「高度専門職」としての教員養成の方向性を示しています。

こうした中、教育学部では昨年12

月、群馬県教育委員会とともに公開シンポジウム「『学び続ける教師像』の実現に向けて」を開催し、教員養成のあり方を示しました。

●群馬大学教育学部の、 ここが強み！

群馬県教育委員会をはじめとする地域の教育委員会との密接な連携の下、質・量ともに充実した実践的な教員養成カリキュラムが本学部の一番の強みです。県内の多くの公立学校と協力し、先進的な教育実習のしくみを整備し、実践的指導力を身に付けられるよう1年生からスムーズな導入を図っています。

また、2008(平成20)年には、全国に先駆けて教職大学院を開設。地域のミドルリーダーとなる教員養成と研修に力を発揮しています。

さらに、基礎学力の向上や「いじめ」問題の解決をはじめとする多くの教育課題についての共同研究も盛んです。

「いま、教育学部に求められているのは、『センター・オブ・コミュニティ』として地域の教育課題に取り組むこと。本学部では、高度専門職業人としての教員養成・研修機能の充実を柱に、さらに『センター・オブ・コミュニティ』機能の充実を図っていきたい。」と豊泉学部長はビジョンを語っています。



豊泉周治 教育学部長・大学院教育学研究科長

埼玉県立川越高等学校出身。

一橋大学社会学部卒業。一橋大学大学院社会学研究科修了。

現在、群馬大学教育学部長・大学院教育学研究科長、教育学部教授。



公開シンポジウム「『学び続ける教師像』の実現に向けて」

先進的で充実した教育実習システム

「入学から卒業まで、体系的なカリキュラムを整備している本学部の教育実習システムには、『基礎から応用へ、日々の授業から実践へ』の充実度が高いという点で自信をもっています。1年次では、まず学校現場に出て、教師と子どもの『かかわり合い』を中心に教師の仕事を体験し、自らの適性を確かめるとともに、自分も『教員になる』という自覚を高めます。2年次では、附属小・中学校で優れた授業や生徒指導の在り方などを参与観察により学びます。そして3年次は、本格的な教育実習です。まず、5週間ほど附属小・中学校などの協力校で基礎実習を徹底して行います。その後、県内100校以上の小・中学校で応用実習を行い、理論から実践へ応用・発展させ、学校・学級文化の違いを理解します。

※参与観察とは調査者が被調査集団の中で多角的に観察する方法。



教育実習の様子

す。こうした教育実習システムを整備できたのは、学部の全教員参加型の協働体制による部分が大きいです。他大学に類を見ない、全教員が学生の派遣先である実習校を回り、授業を行う学生へ厳しさの中にも温かさをもった『まなざし』を注ぎながら、自信を育ませる指導に努めています。同時に、教員自らがつぶさに実習の実態を把握し、自身の教育実践に生かす努力を惜しません。講座の枠を超えて、心を一つにした本学の教員集団による『本気の姿勢』が学生の責任と自覚を促し、その結果、今日の全県的な協力体制が築き上げられています。心豊かで力量のある教師を育てるには、本学部と群馬県が行っているような、温かで一体感のある教育実習システムが必要であると考えます。」



黒羽正見 教授

茨城県立太田第一高等学校出身。
新潟大学教育学部卒業。上越教育大学大学院教育研究科(修士課程)修了。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)修了。
現在、群馬大学教育学部教授。附属学校教育臨床総合センター長・教育実習委員長を兼務。

群馬県公立学校教員採用試験の校種別結果と占有率（既卒者含む）

| 平成25年度採用 | 全合格者数 | 群大教育学部 | |
|----------------|------------|------------|--------------|
| | | 合格者数 | 占有率 |
| 小学校（小中併願を含む） | 145 | 53 | 36.6% |
| 中学校（小中併願を含む） | 202 | 81 | 40.1% |
| 小・中学校 計 | 347 | 134 | 38.6% |
| 高等学校 | 99 | 20 | 20.2% |
| 特別支援学校 | 24 | 11 | 45.8% |
| 全合格者 合計 | 470 | 165 | 35.1% |

理想の指導実現に、 熱い思いを抱き続ける



群馬県教育委員会 義務教育課長 久保信行さん

東京明法高等学校出身。

群馬大学教育学部卒業。館林市立第六小学校教諭、前橋市立元総社北小学校教諭、群馬大学教育学部附属中学校教諭、高崎市立国府小学校長などを経て、現在、群馬県教育委員会義務教育課長。

「理科授業の中で子どもたちが課題に対して自由闊達に議論を戦わせている。そんな場面に私は初任者の時に出会いました。理想を求めて子どもと勝負をしている先輩教員の姿を見て、私は本気で子ども達と共に授業をつくりたいと思うようになりました。それ以降、ねらい達成のために、子どもの側に立った授業づくりを心がけています。それと併せて、子どもをほめて育てる仕掛けづくりの工夫にも力を注いきました。子どもをその気にさせる仕掛けづくりが必要であり、それが教育の醍醐味ではないでしょうか。その仕掛けに乗って、子どもたちがぐんぐん成長していく姿を認めることにやりがいを感じますし、このようなクリエイティブな仕事が教育の真の姿だと考えています。やはり、『こういう子どもにしたい』という熱い思いがあるかどうかで教育の質が変わると思いますね。求められる授業というのは、時代の要請によって変化を続けていくものです。常に最新の教育情報を把握して、自らの専門性を高めていかなければなりません。

「教育学部を志していくみなさんに求めたいことは、教育への熱い思いと自らを高める向上心ですね。」

一流の企業人を講師に迎えた連携授業を制度化 企業のノウハウを学び、実践力を鍛える

2013年度、社会情報学部に新しい魅力が加わりました。第一線で活躍中の企業人による実践的な授業を卒業に必要な単位として認め、正式な授業科目とすることができる「連携授業」を制度化。社会情報学部ならではの「連携授業」の特色・狙いについて、企画・制度化を主導した富山慶典教授にお話を伺ってみましょう。

●企業とのコラボで キャリア教育を本格化

「大学生の就職は一時期よりは良いものの、厳しい状況が続いている。また、3年以内の離職者も目立つなど、教育と産業のミスマッチが起こっている可能性があります。これは、本人のみならず、企業や社会にとっても不幸なことです。大学教育で単位を取得し、知識は得るもの、自主性や社会性が育たないまま卒業・就職に至る人も一部いるのが現状の大学教育です。また、教える側の大学教員についても、専門知識は高いレベルを当然持っていますが、一般企業の最前線については、必ずしも十分に知り得ないことがあります。大学のみで取り組む人材育成教育には一定の限界があります。そこで、企業等の第一線で働く一流の仕事人とのコラボレーションを考えました。」

こう富山教授がその経緯を語る「連

携授業」について具体的に見てみましょう。特徴は、卒業に必要な単位として認定されること、そして授業名称には企業名を冠することです。企業人の講師は客員教授等に就任しています。

●社情生に人気の 4業種の講座開講で ミスマッチ解消を

さらに、社会情報学部生の多くが希望する就職先を情報産業、マスコミ、金融業界、地域企業の4部門に大別し、連携授業に4つの科目を設けました。

情報産業部門はNTTグループによる「情報通信ネットワーク論」。富山教授は「インターネットやケータイ通信の活用のアイデアは豊富でも、技術的な『仕組み』について理解できていない人が意外に多いのが現状です。理屈的な部分についても把握しておかないと、情報通信産業の世界で企画や商品開発には携わることのできないでしょう。そのあたりを第一線のNTTグループの方から講義していただきます」と、その狙いの一



左から富山慶典教授、森谷健学部長、NTTラーニングシステムの加茂洋一さん、インターネット関連について講師役を務める予定のNTTコミュニケーションズ・川口高弘さん

森谷健 社会情報学部長・ 大学院社会情報学研究科長

東京都立立川高等学校出身。
同志社大学文学部社会学科卒業、関西大学大学院修了。現在、群馬大学社会情報学部長・大学院社会情報学研究科長、社会情報学部情報行動学科教授。

端を語っています。

社会情報学部卒業生も数多く活躍するマスコミ部門は、上毛新聞社による「マスコミ論」。また、金融業界部門は、東和銀行による「現代金融システム論」。この講義は、すでに2013年2月、試行的にスタートしています。熱のこもった本格的な講義は大きな反響を呼んでいます。

そして、最後の地域企業部門は、前橋商工会議所による「地域企業経営論」。前橋商工会議所の会員企業5社が1社3回程度のオムニバス形式の講義と企業見学等になる予定です。

このように、学びだけでなく、その先にある将来の進路を視野に入れた、社会情報学部ならではの実践的なキャリア教育となっています。各業界の仕事内容や魅力、必要な能力について深く理解した上で勉学に臨み、そして就活に挑戦することができる学生にとっても大きな魅力となるでしょう。また、就職後のミスマッチの解消にもつながるはずです。

後期に開講される4つの連携授業にも大きな期待が集まっています。

**富山慶典
教授**

東京都立秋川高等学校出身。
東京理科大学理工学部経営工学科卒業。東京工業大学(工学博士)。
1994年社会情報学部発足と同時に群馬大に転じ、2009年から4年間、社会情報学部長を務める。現在、群馬大学教育研究評議会評議員、社会情報学部情報行動学科教授。

企業のイメージアップやきめ細やかな地域貢献、マーケティング活動の一環として積極的に取り組みたい



NTTラーニングシステムズ株式会社
教育研修事業部 第一営業本部 第二法人営業部長 加茂洋一さん

「群馬大学の『連携授業』の実施は、NTTグループとしても大きな価値があります。一番の目的は、学生達に情報・通信サービスの本質を理解していただき、正しく利用する術を身につけていただくことです。ひとりでも多くの学生が、自分の目的に合わせてICTをうまく活用できるようになり、将来にわたって豊かな生活を送れることを願っています。」

実際の講義では、通信システムの仕組みから情報・通信事業の最新動向まで幅広く学んでいただきます。『携帯電話やインターネットはどのようにつながっているのか』といった基本はもちろん、『クラウドサービスがどのように利用され、どのような価値

を生み出しているのか』といった業界トレンド情報等を含めて進めていきます。

さらに、情報・通信ビジネスを『より身近に』感じていただくため、業界の最前線で活躍するNTTグループ社員をゲストスピーカーとして招くとともに、約22万人が働くNTTグループの多様な仕事内容についても解説していく予定です。

『連携授業』で多くの学生達と直に接触できることを、貴重な機会と考えています。私も、学生達の情報・通信サービスに対する意見や考え方を勉強させていただき、それをNTTグループの未来の情報・通信サービスに反映していきたいと考えています。」



加茂洋一さん

慶應義塾高等学校出身。

慶應義塾大学経済学部卒業。

日本電信電話株式会社(現NTT)に入社。NTT東日本法人営業本部、NTTコミュニケーションズネットビジネス事業本部などを経て、現在、NTTラーニングシステムズ株式会社教育研修事業部第一営業本部第二法人営業部長。

「つながり」が価値を生む時代に求められる能力



NTTコミュニケーションズ株式会社
企画部門 インターネット検定担当 川口高弘さん



川口高弘さん

米国ペンシルベニア州 Beaver College 文学部を卒業。ニューヨーク州立大学大学院歴史学研究科博士前期課程を修了、歴史学修士／MA。明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科経営管理修士課程を修了、経営管理修士／MBA。国立大学法人埼玉大学大学院経済科学研究科博士後期課程を修了、博士（経済学）。海外留学から帰国後、日本 電信電話株式会社（現NTT）に入社。国際営業を経て英国ウェールズに駐在。帰国後、NTTコミュニケーションズ株式会社にて新規事業立ち上げプロジェクトに参加し、2006年からインターネット検定事業において大学営業を担当。

「私たちの社会では、これまで優れた能力をもつ個人によってさまざまな価値が生まれてきましたが、現在では、傑出した個人よりもむしろふつうの人たちの『つながり』から、さまざまな価値が生まれるようになっています。たとえば、それまでお店の片隅でひっそりと売っていたチョコレート菓子が、お守りとして全国の受験生の必須アイテムになるきっかけを与えたのは、インターネットでつながるふつうの人たちでした。このように、インターネットでつながる私たちが生み出す価値は、個人や単一組織によって生み出されるそれを凌駕するようになっています。インターネットは、いまや性別、人種、民族、国境、経済階層を越えて私たちを結びつけることで新たな価値を生みだす知的資源に成長し、私たちの生活に大きな影響を与えるようになります。」

NTTコミュニケーションズでは、2001年からインターネット技術に関する普遍的な知識を体系化したICT教育プログラムと『インターネット検定ドットコムマスター』の名称で親しまれている資格試験を全国で提供しています。『インターネット検定ドット

コムマスター』は、知識のための知識ではなく、実践のための知識（実践的知識）の習得を目的として設計されています。ここでいう実践的知識とは、例えば大学生の皆さんのが社会人になったときに、仕事で実際に使えるスキルのことです。

仕事の世界では、ときどきインターネットやパソコンのトラブルで仕事が中断される（『つながり』が途絶える）ことがあります。これによって被る経済的損失は計り知れません。こうしたトラブルには利用者側の人為的ミスによるものも少なくなく、トラブルを未然に防ぐには、私たち自身がインターネットについての理解を深めることが重要となります。ここでのキーワードは、『つながりの持続性』です。価値を創造し続けるためには、『つながり』を持続させなければなりません。インターネットにかかる実践的知識の習得は、それを実現するためのもっとも有効な手段であると私は考えています。

NTTコミュニケーションズは『インターネット検定ドットコムマスター』を通じて、皆さんの実践的知識の習得のお手伝いをさせていただきたいと思っています。」

地域医療枠から始まるキャリア形成 地域のリーダーとなる医師を目指せ!

医療格差を解消する一つの手段として2009年入試から始まった医学部医学科の地域枠。「地域枠」は、地域の医師不足を解消するために各地の国公私立大学医学部医学科が始めた入試制度です。スタートから5年、本学で行っている群馬県の「地域医療枠」について和泉孝志学部長や学生さんたちにお話を聞いてみました。

●医師数が全国平均を大きく下回る地域も

まず、はじめに群馬県の医師の偏在について見てみましょう。人口10万人当たりの医師数は、全国平均の219人を下回り、30位(2010年)。前橋だけは全国トップクラスですが、高崎も含めて他地域は全国平均以下で、中でも北毛や東毛は大きく平均を下回っているのが現状です。決してべき地とは言えない地域でも医師不足は大きな社会問題となっています。

次に、群馬県の「地域医療枠」制度につ

いて簡単に概要を説明しましょう。

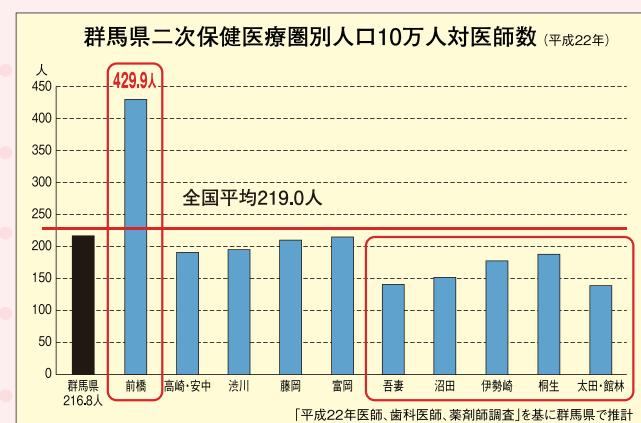
「地域医療枠」で入学した学生には、月額15万円の修学資金が卒業までの間貸与されますが、卒業後、一定の期間(一般入学の場合は10年)、県内の特定病院で臨床研修・診療業務に携われば、修学資金の返還が免除されるところがポイント。また、地域医療枠合格者は、在

学中、本学や群馬県などが企画する県内医療に関する特別プログラムに参加することになります。

一般入試の地域医療枠合格者は9名程度(前期日程)、推薦入試による合格者は7名程度。いずれの場合でも、成績が医学部医学科全体の募集人員内にあることが条件で、希望者の中から成績順に合格者が決められます。地域医療枠は、医学部医学科合格者の中の優秀な学生の中で、県内医療への貢献を希望するものが採用される狭き門でもあります。

●ゆるやかで挑戦しやすい地域医療枠の特長

「卒業後のキャリア形成」という視点から見て、群馬大学の『地域医療枠』の大きな特長は、ゆるやかな運用となっている点です。対象は県内出身者に限定しませんし、群馬で働きたい、より意欲のある



学生に幅広くチャレンジしてもらいたいという意図を込めています。」と趣旨を説明するのは、和泉学部長。

和泉学部長が語るように、「地域医療枠」の受験は県内出身者ではなくても可能です。

卒業後に働く病院は、特定病院の中から本人が選択することができます。県の定める特定病院とは群馬大学医学部附属病院を含めて県内全エリアに散らばる約50か所の地域の中核的な医療機関ですが、現在増加を検討中です。

卒業後10年間(編入学の場合は8年4ヶ月間)は県内特定病院で働くことが必要ですが、病気や産休・育児休業、大学院進学、海外留学などは中断期間として認められるなど、ゆるやかで柔軟に運用されます。この点が他大学とは大きく異なる特長です。

「前橋以外の県内地域では医師が足りていない地域もあります。地域医療のリーダーを目指す志の高い学生にぜひとも群馬で働いて欲しい。医師は、社会的に価値のあるやりがいが多い職業です。臨床でも研究でも、意欲的な学生のチャレンジを期待しています。」



和泉孝志 医学部長・大学院医学系研究科長

愛媛県愛光高等学校出身。
東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学系研究科助教授などを経て、現在、群馬大学医学部長・大学院医学系研究科長・大学院医学系研究科教授。



矢嶋尚生

医学部医学科5年
群馬県立太田高等学校出身。

「医師を志したきっかけは『ブラック・ジャック』です(笑)。救急救命や外科に興味があり、地元で医師として活躍したいと考え、応募しました。地域医療枠は仕送りの必要もなく、親孝行になります。経済的に進学が厳しい方でも進学のチャンスがあると思います。また、地域医療枠学生は、県や大学主催のセミナー等への参加機会が多く、自分にとって貴重な学びの機会となっています。」



書上奏

医学部医学科4年
群馬県立前橋女子高等学校出身。

「地域医療枠を志したのは、医師不足によって起こる県内の医療環境の厳しさをニュースで知ったことです。県内で医療に取り組み、生まれ育った故郷で役に立ちたいと思いました。医学部に入って、現場を体験する機会もあり、改めて地域医療の現状を再確認しました。地域で活躍する医師の必要性を噛み締めています。」



戸村琴音

医学部医学科4年
群馬県立前橋女子高等学校出身。

「最初は医学部に興味のなかった私に、方向転換させてくれたのは群馬で活躍する医師の姿でした。私も群馬で活躍する諸先輩方に少しでも追いつけるように、群馬で医師として頑張りたいと考えています。就職にあたって、県内には病院見学のチャンスが多くあることもうれしいですね。」



関口奨

医学部医学科3年
埼玉県立大宮高等学校出身。

「実家が埼玉の県北地域で群馬に親しみがあり、また、群馬大の地域医療枠では働く病院を自分の意志で選択できる点も魅力で受験を決めました。内分泌や生理学に興味があり、臨床だけでなく研究にもチャレンジし、群馬の医師不足解消に貢献したいと考えています。」



加地卓万

医学部医学科2年
埼玉県秀明高等学校出身。

「自宅は北毛にあり、将来的に群馬県内で働きたいと思っています。将来の進路として、臨床のみならず、研究者も対象となる点はキャリア形成を考える上でうれしいですね。ひとり暮らしですが、修学資金のおかげで勉強に集中することができます。」



加藤悠介

医学部医学科1年
群馬県立沼田高等学校出身。

「地域医療枠の存在を知って、医師の少ない地元・利根沼田地域で働きたいと思いました。入学から1ヶ月ですが、早くも病院現場を見学する機会があり、地域医療について考えるきっかけができ、良かったですね。子どもが好きなので、将来は小児科医を目指したいと考えています。」

地域医療の弱点に積極果敢な挑戦を!

地域医療推進研究部門の責任者として、地域医療枠の学生を中心とした医学科学生や高校生を対象にしたセミナー開催や様々な指導を行っているのが、鎌田英男准教授です。

「医学生対象の地域医療体験セミナーでは、現場の問題点について自治体トップや病院長から生の声で期待する医師像を語ってもらうとともに、地域医療枠としてのキャリアモデルについても丁寧に説明しています。セミナーを通して、群馬の医療で不足している分野、特に医師不足の深刻な地域を知ってもらい、そういう

った弱点に積極的にチャレンジできるような意欲的な医師に育ってほしいですね。専門医を目指す人が多いですが、そのためには卒業後6~9年のステップが必要。地域医療枠の修学資金返還免除のための勤務年数は、キャリアアップのための準備期間と考えられます。ぜひ研究面・臨床面を含め地域医療を引っ張るリーダー医師を目指してほしい。」

地域の医療現場を牽引するリーダーを目指す地域医療枠には、大きなやりがいと使命があるのです。



鎌田英男 准教授

兵庫県灘高等学校出身。
群馬大学医学部医学科卒業。公立富岡総合病院耳鼻咽喉科主任医長などを経て、現在、群馬大学医学部附属病院寄附研究部門・医療人能力開発センター地域医療推進部門(群馬県)准教授。

専門看護師として キャリアを磨く



医学部保健学科に進学して看護師を目指す人のさらなるキャリアアップとして専門看護師(CNS)の存在があります。一般的な看護師では複雑すぎて解決できない問題を抱える患者さんやその家族に対して、水準の高い看護ケアを提供する、特定の専門看護分野の知識・技術を高めた看護師のことです。大学院保健学研究科では、2013年4月、さらに高いレベルを目指す発展型専門看護師^(※1)教育を開始しました。担当する神田清子教授にお話を伺ってみましょう。

●キュア(治療)の力を養う 発展型専門看護師

大学院保健学研究科での専門看護師(CNS)教育は2008年から始まった教育制度であり、日本看護系大学協議会がカリキュラムを認定しています。臨床経験が5年以上ある人が対象であり、北関東一円から意欲的な看護師がチャレンジしてきました。

専門看護師(CNS)になるためには、大学院修士課程の中で、所定のカリキュラムを修得し、日本看護協会の試験合格が必要です。

分野が多岐にわたる専門看護師ですが、本学にはがん看護分野、老年看護分野、慢性看護分野があります。

例えば、がん看護に携わっている看護師に

は、本人や家族への告知問題、抗がん剤や放射線の副作用に対する正確な情報をどうやって患者さんと共有することができるか等々、極めて多くの解決すべき問題を抱え、専門性の高い看護師の存在には大きな社会的価値があります。

さらに2013年4月から始まったのが発展型専門看護師教育です。本研究

科ではいち早く取り組み、スタートと同時に発展型CNS教育の認可を受けました。大きな変更点は、必要なカリキュラムが従来の26単位から38単位に増えたこと。

そして、専門看護師としての実践・教育・研究・倫理調整・調整・相談の6つの機能を学ぶと



フィジカルアセスメントの演習風景

ともに、従来の専門看護師の能力に加えてキュア(治療)の力を養うことが大きな特徴です。

●チーム医療で 力を発揮できる人材に

「自らの経験に基づく医療現場の問題を解決したい」という意欲を持つ学生達は、積極的に自分の考えを発展させようと切磋琢磨しています。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、大きく成長していくのです。」と語ってくれたのは、神田教授です。

また、がん看護分野のCNS教育に携わる二渡玉江教授は「群馬大の専門看護師教育の特長は、まず実習施設が充実していること、そして医師や薬剤師の協力が十分に得られることで、専門看護師を育成する環境が良好であること。」と本研究

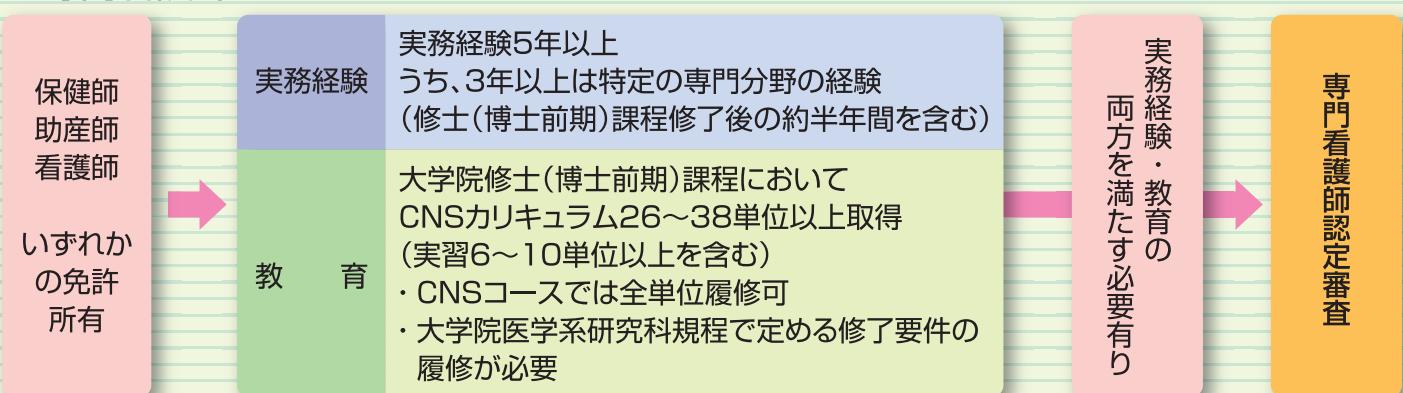


神田清子
大学院保健学研究科長補佐

群馬県立太田女子高等学校出身。
群馬大学医学部附属看護学校卒業。神奈川県看護教育大学校卒業。法政大学文学部卒業。群馬大学医学部医療技術短期大学部助教授、群馬大学医学部保健学科准教授、教授等を経て、現在、群馬大学大学院保健学研究科長補佐、大学院保健学研究科教授。

(※1) 日本看護系大学協議会の定義によると、「高度実践専門看護師とは、看護系大学院の教育を受け、個人、家族および集団に対して、ケア(care)とキュア(cure)の融合による高度な知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般的な管理・実践できるものという」

■専門看護師への道のり



科のメリットを説明しています。

専門看護師となった人材は、看護における自らの夢を実現させるべく、卒業後には専門性を生かしたキャリアを手に入れ、患者さんと医療専門職をつなぐリーダー・組織の変革者となる可能性が広がっていくのです。

看護師になった後に、さらなるキャリアアップを果たして、より質の高い看護を実現するという目標を達成するために、将来の一つの可能性として検討してみることも良いのではないかでしょうか。



二渡玉江 教授

群馬県立桐生女子高等学校出身。群馬大学医学部附属看護学校卒業。日本大学文理学部卒業。
群馬県立医療短期大学(現・群馬県立県民健康科学大学)助教授、教授等を経て、現在、群馬大学大学院保健学研究科教授。



がんプロフェッショナル養成基盤推進プランに取り組むメンバー

専門看護師を目指して奮闘中です!

野村亜矢

群馬大学大学院保健学研究科1年
栃木県宇都宮短大附属高等学校出身。獨協医科大学看護専門学校・看護学部卒業。
獨協医科大学附属病院看護師(向学のため休職中)。



「患者の希望に寄り添って、医師との調整をうまくできる看護師になるのが夢ですが、そのためには知識も技術も自分に足りません。そこで、一生かけてやっていきたい看護師という仕事のために、2年間休職しながら看護の専門看護師にチャレンジしようと決心しました。このプログラムの講義には今まで知らなかった事例や研究が豊富に紹介され、改めてこれまで看護に携わった患者さんの状態について深く実感できるようになっていく気がしています。実践的で感動の連続といったらいいのでしょうか。修了後は、ぜひ専門看護師として力を発揮していきたいと考えています。」

今井洋子

群馬大学大学院保健学研究科1年
群馬県立沼田女子高等学校出身。
放送大学卒業。
前橋赤十字病院看護師(向学のため休職中)。



「前橋赤十字病院の外来化学療法室でがん看護に当たっていました。患者さんの人生の大きな局面において、生きる希望の支えとなるには技術・知識をもっと蓄える必要性を感じ、また、尊敬する神田教授の下で学ぼうという思いが、このプログラムを志望した理由です。進行してしまい限られた治療法しか残されていない状況になった中、患者さんたちはどのような思いで抗がん剤治療を受けているのか、そしてどうした患者さんに対して、どのような看護ができるのか。がん患者さんの心理状態を明確に理解した上で、患者さんの立場に立った看護ができるようになりたいと思っています。」

理工学部の魅力を解剖。 桐生から世界をリードする

2013年4月、工学部・大学院工学研究科が理工学部・大学院理工学府に生まれ変わりました。単に理学と工学が同じ学部に混在する従来型の理工学部とは異なり、理学と工学が融合した新たなシステムです。本学理工学部の魅力、最新の状況について、理工学部の誕生とともに新たに就任した篠塚和夫学部長に語っていただきましょう。

●理学と工学を融合し、 俯瞰的な視点を養う

「従来型の工学部では、ともすれば早い時期に専門分野に特化してしまい、総合力が足りなくなってしまうというケースがありました。工学的専門教育に、理学という横糸を通すことによって、俯瞰的なモノの見方を獲得することができるようになります。さまざまなテクノロジーの基盤となる理学的知識・素養を蓄えた上で、革新的な新技術を生み出す工学に熟達した人材を世の中に送り出したいと考えています。」

篠塚学部長は、理工学部に込めた思いをこう語ってくれました。

本学部は改組前の工学部時代から理学系の教員が充実していることが特徴の一つであり、理工学部のスタートもスムーズに行われました。

理工学部の大きな魅力は、北関東にありながら世界をリードする革新的な研究プロジェクトがいくつも進行していることでしょう。一例を上げると、2010年度ノーベル化学賞の対象になったクロスカップリング反応の研究や低炭素社会構築のキーとなるシリコン、カーボン材料の開発など。先進的な医工融合による研究も注目されています。

理工学部の前身である工学部では、昭和30年代から産業材料や有機化学、ケイ素科学な

どのジャンルでパイオニア的な研究が進められ、その伝統が現在に受け継がれています。

●女子学生比率、全国国公立大理工系トップクラス

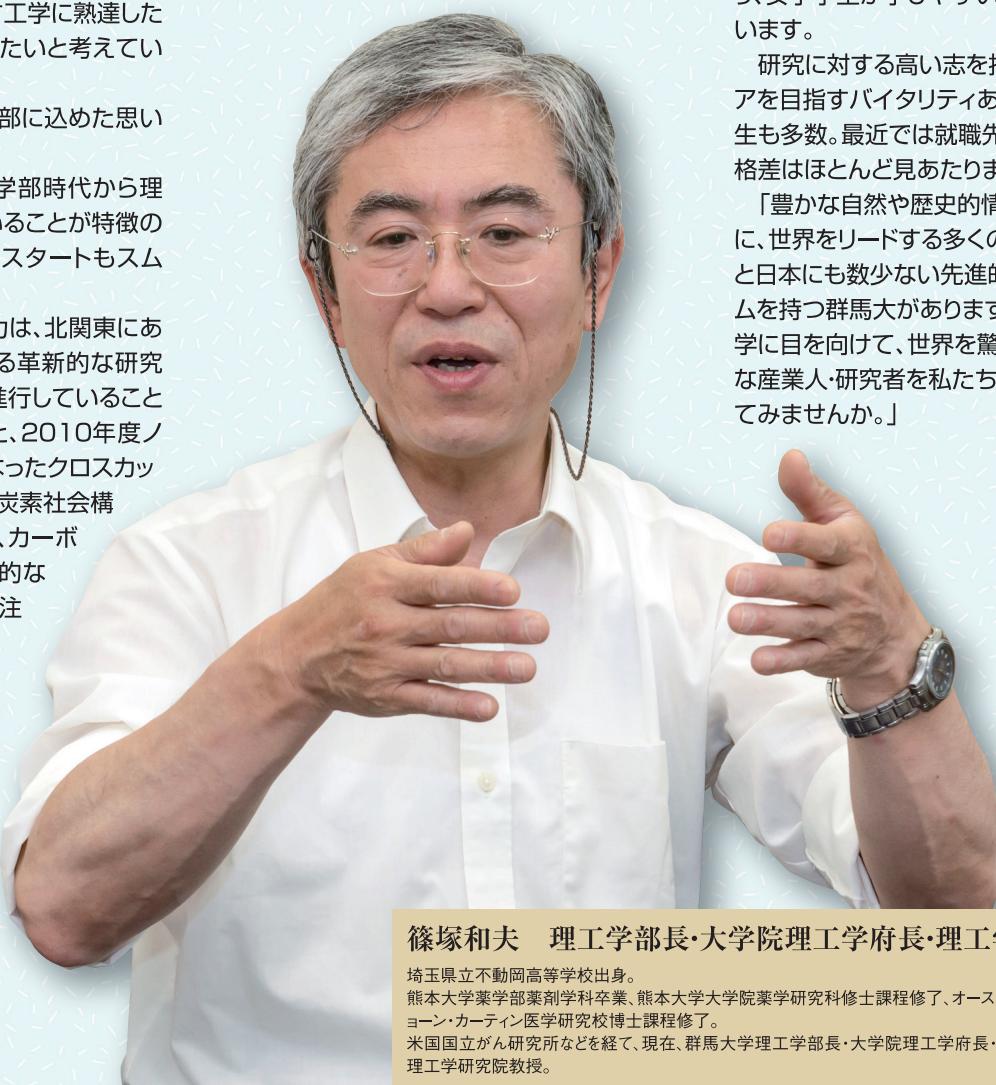
こうした研究レベルの高さを受け、就職実績も好調です。各学科とも毎年5倍近い求人公募があり、企業との共同研究も多く、就職に有利となっています。学部

卒・院修了生とともに、大手企業や研究職、地元有力企業等に就職を決めています。大学院には6割以上が進学し、より高度な知識や研究能力の修得を志す学生が多いことも特徴の一つです。

また、在学生に占める女子比率が約20%を占め、国立大理工系の中では最上位クラス。化学・生物化学科では、なんと約40%ほどが女子です。建物や食堂なども女子学生にも快適に設計されており、女子学生が学びやすい環境が整っています。

研究に対する高い志を抱き、エンジニアを目指すバイタリティあふれる女子学生も多数。最近では就職先にも特に男女格差はほとんど見あたりません。

「豊かな自然や歴史的情緒のある桐生に、世界をリードする多くの革新的な研究と日本にも数少ない先進的な教育システムを持つ群馬大があります。ぜひ群馬大学に目を向けて、世界を驚嘆させるような産業人・研究者を私たちとともに目指してみませんか。」



篠塚和夫 理工学部長・大学院理工学府長・理工学研究院長

埼玉県立不動岡高等学校出身。
熊本大学薬学部薬剤学科卒業、熊本大学大学院薬学研究科修士課程修了、オーストラリア国立大学ジョン・カーティン医学研究所博士課程修了。
米国国立がん研究所などを経て、現在、群馬大学理工学部長・大学院理工学府長・理工学研究院長、理工学研究院教授。

男女格差なし、目指せエンジニア

「高校生向けの出前授業で、本学部の魅力を広く訴え続けた甲斐もあり、女子学生が増えてきました。始めた当初、女子高では、参加者が、ほんの数人ということもありました。今では多くの女子高生から人気を集めているようです。また、本学部は女子学生にとっては勉強に集中できる環境が整っていることも有利ですね。就職に当たっても、OG訪問などでアドバイスがもらえると好評。エンジニアの

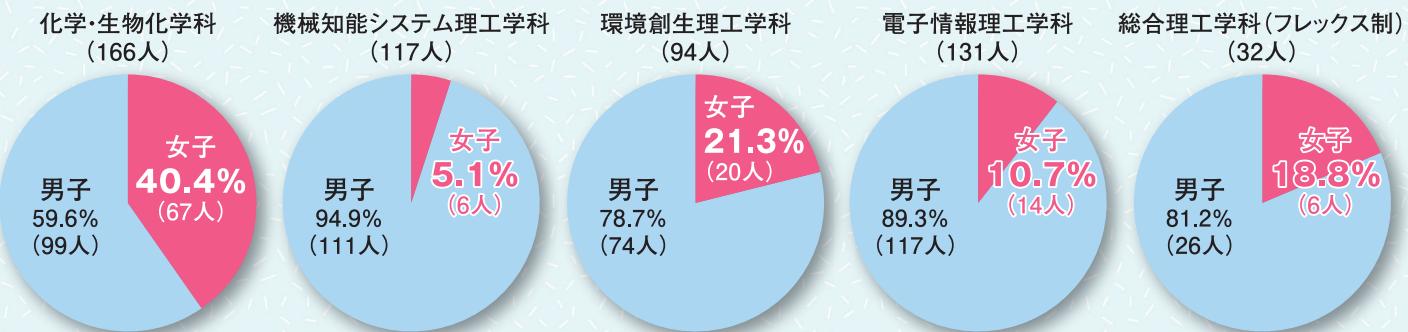
世界にも女子の進出が盛んで、本学部の女子学生は臆せずチャレンジしています。男子よりも早く内定する傾向が強いのは目的がしっかりしているからでしょうか(笑)。群馬大学理工学部の研究室では、学生各人が『1人1テーマ』を基本に、世界でだれも知らないテーマを選んで研究します。未知を切りひらいていく、そんな口マンがありますね。」と石間副学部長は語っています。



石間経章
理工学部副学部長・広報委員長

静岡県立清水東高等学校出身。
慶應大学理工学部機械工学科卒業。慶應大学大学院理工学研究科博士課程修了。
群馬大学工学部助手・助教授・准教授・教授を経て、現在、群馬大学副理工学部長・広報委員長、理工学研究院教授。

各学科の女子学生比率



亀山一馬

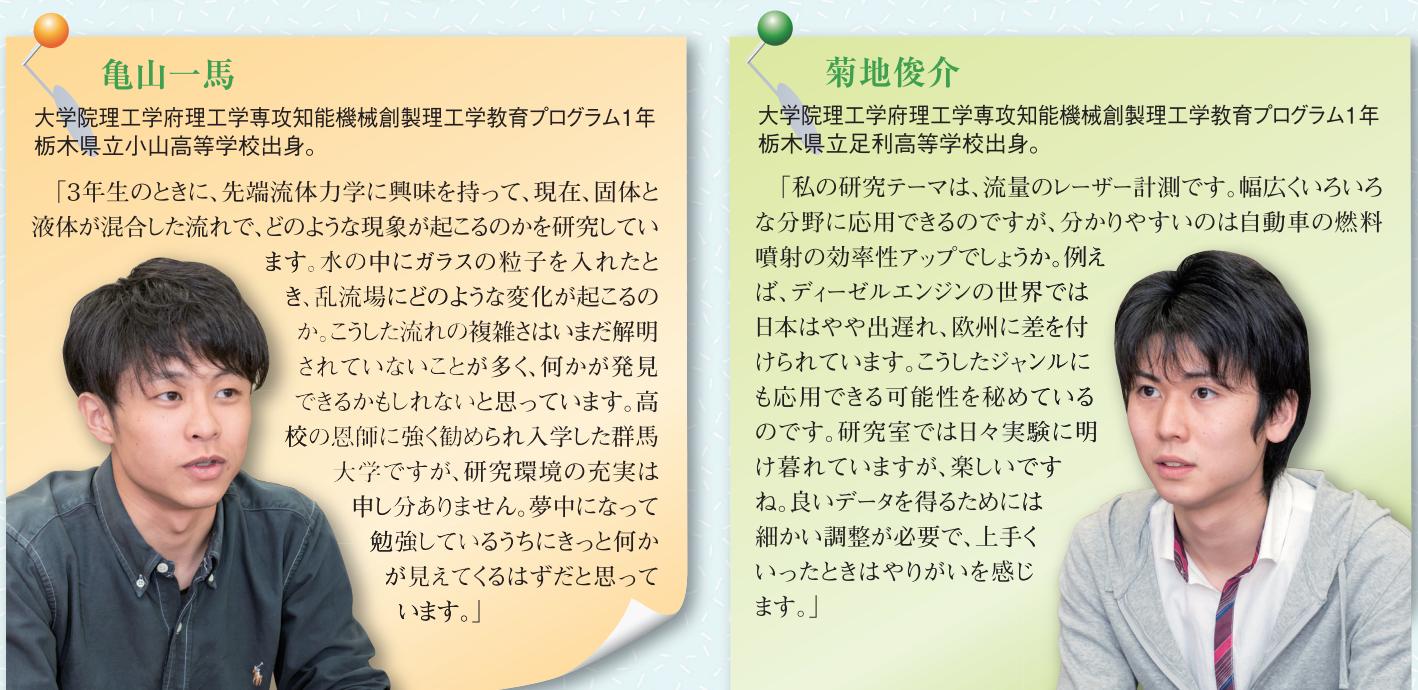
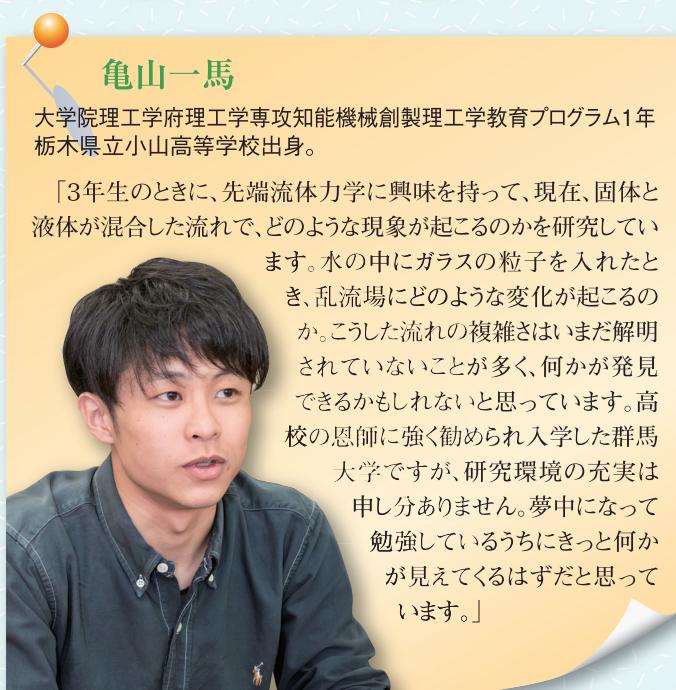
大学院理工学府理工学専攻知能機械創製理工学教育プログラム1年
栃木県立小山高等学校出身。

「3年生のときに、先端流体力学に興味を持って、現在、固体と液体が混合した流れで、どのような現象が起こるのかを研究しています。水の中にガラスの粒子を入れたとき、乱流場にどのような変化が起こるのか。こうした流れの複雑さはまだ解明されていないことが多い、何かが発見できるかもしれないと思っています。高校の恩師に強く勧められ入学した群馬大学ですが、研究環境の充実は申し分ありません。夢中になって勉強しているうちにきっと何かが見えてくるはずだと思っています。」

菊地俊介

大学院理工学府理工学専攻知能機械創製理工学教育プログラム1年
栃木県立足利高等学校出身。

「私の研究テーマは、流量のレーザー計測です。幅広いいろいろな分野に応用できるのですが、分かりやすいのは自動車の燃料噴射の効率性アップでしょうか。例えば、ディーゼルエンジンの世界では日本はやや出遅れ、欧州に差を付けられています。こうしたジャンルにも応用できる可能性を秘めているのです。研究室では日々実験に明け暮れていますが、楽しいですね。良いデータを得るためにには細かい調整が必要で、上手くいったときはやりがいを感じます。」





群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

リサイクル適性Ⓐ

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

□発行日 平成25年7月
□編集・発行 国立大学法人 群馬大学総務部総務課広報係
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL027-220-7011 FAX027-220-7012
e-mail:s-public@jimu.gunma-u.ac.jp
□制作 上毛新聞アドシステム株式会社